

# コミッショナー方針

平成 22 年 7 月 1 日

阪神さくら地区コミッショナー 高田 真志

多くの先輩方に受け継がれてきた伝統ある芦屋と西宮が合併し、新たに「阪神さくら地区」が発足しました。すべての団が一つになって新たな第一歩を歩み出す、この記念すべき年に地区コミッショナーをお受けできることを心より誇りに思い、全力でこの重責を全うしていき所存でございます。

さて、現代のボーイスカウトの状況は、成人指導者は子供達を取り巻く環境に対処する難しさからスカウティングへの自信を見失い、スカウト自信はスカウトであることに対する誇りを失いつつあるように思われます。ベーデンパウエルがこの運動を提唱した 100 年前とは確かに社会や生活環境は大きく変わりました。しかし、子供達の冒険心や好奇心は普遍的であり、スカウティングはその心をしっかりと掴み続けてきました。

今こそ、スカウティングの本質を再確認し、新生阪神さくら地区すべての加盟員が「自信」と「誇り」を持ち、より力強いものにしていこうではありませんか。

## 【コミッショナー方針】

『スカウティングは素晴らしい！！』

～ “自信”と“誇り”を持ってスカウティングを実践しよう～

**Good Citizen** スカウティングの目的は、より良き公民の育成にあります。世界のスカウトすべてが持つ「3つのちかい」にあるような姿に、人になろう。そのために日々の生活において「8つのおきて」を実践しているのです。

良き公民に必要な資質としてボーイスカウトは「人格」、「健康」、「技能」、「奉仕」という教育の4本柱を示しています。「ちかい」と「おきて」に基づいた価値感を持った仲間集団が、個人の進歩を促すために用意された様々なプログラムをもとに、野外活動を中心とした体験学習をとおしてそれらの資質を身につけていくのです。

このような高い理想と、確立されたシステム(教育法)があるスカウティングを私たち成人指導者は自信を持って取り組むべきです。「スカウティングは素晴らしい！」と胸を張る指導者のもとには誇りを持ったスカウトが必ず育ちます。「自信」と「誇り」を持ってスカウティングを実践できるようすべての指導者に対して全力で支援します。

## 【長期重点目標】

『地区内すべての地域でスカウト運動が活性化する』

- 5年後の目標として全団カブスカウト隊、ボーイスカウト隊が複数班(組)で活動できる
- 団の活性化を支援し、地域社会との関わりをより強固なものにする

コミッショナーはスカウト運動の基礎組織である隊・団の充実に向けた支援を行います。すべての地域でボーイスカウト活動が活発に行われ、活動に参加したいという青少年が何時でも何処でも活動できる状況を目指します。そのために現状の団数を減らさず、それぞれの団が少しでもスカウト数を増やし、スカウト教育法の要である班制教育をしっかりと施せるためにすべてのカブスカウト隊、ボーイスカウト隊が複数班で活動できことを目標とします。

また、地域社会の一員として認知される存在となれるよう活動し、ボーイスカウト運動への理解の推進を図ります。

## 【重点事項】

1. ちかいとおきての実践
2. 班制教育、進歩制度の実践
  - ・ 複数班(組)でのプログラム展開
  - ・ ビーバースカウトは小枝章取得、カブスカウトはクリアー章取得、ボーイスカウトは1年1つの進級、ベンチャースカウトは1年1つのアワード取得
3. プログラムの充実
  - ・ すべての部門で野外活動の充実
  - ・ 3班(組)以上で年3回以上のハイキング実施
  - ・ ボーイスカウト隊5泊以上の長期野営の実施
  - ・ 地区ベンチャー活動の充実とローバー活動への支援
4. 国際プログラムの推進
  - ・ 各部門における国際プログラムの取組み(23WSJへ向けて)
  - ・ ウェルカム・ザ・ワールドプロジェクトの地区行事、隊プログラムへの取組み推進
  - ・ 北米派遣支援
5. ユース年代への支援
  - ・ ユース年代の集まり「ユース」確立への支援と助言
  - ・ 組織内への青年の参画支援
6. 指導者の支援と養成
  - ・ ラウンドテーブルの充実(教育法の理解、知識技能の修得)
  - ・ トレーニングチームの整備と再編(各団からチーム員の選出)
  - ・ 定型訓練参加への支援
  - ・ 指導者間の交流と情報交換
7. 団の支援
  - ・ 団訪問を通じて団の現状把握と目標の共有
  - ・ 団内指導者とのコミュニケーション
  - ・ 団の活性化における支援と援助
8. 地域との協力
  - ・ 地域諸団体への協力体制を充実し、ボーイスカウトへの理解の推進